

「CtoC」ボランティア募集で、 新たな支援のカたちをつくる



一般社団法人 FUKKO DESIGN 理事 木村充慶

一般社団法人FUKKO DESIGNは、民間企業の有志が集まり、発災後すぐに行動することを目的として、昨年、広告会社、メディアなど様々な企業の社員で立ち上げました。本年1月より、私たちはSNSを使って個人同士が直接つながる「CtoC」のボランティア募集サービス「スケット」をスタートしました。「CtoC」とは、個人と個人が、お店などを介さず Web上で直接やり取りをするサービスで、フリマの「メルカリ」、民泊の「Airbnb（エアビーアンドビー）」などがよく知られています。

「スケット」は、被災者が自らお願いしたい作業内容を投稿し、SNS上で広く募ります。その投稿を見て支援したいと思った人はサイトにリンクし応募。マッチングしたら SNS 上でメッセージを送り合い、ボランティア活動に繋がるという仕組みです。Web上で完結し、簡単にボランティアのマッチングが行えます。

元々、令和元年房総半島台風の復旧支援を館山でしていた際に、ボランティアが来ないと悩んでいた人たちを見たのが開発のきっかけです。SNSを日常的に利用している人なら、自ら募集を発信できないかと考え、地元の方と連携してSNS

上でボランティア募集を行いました。すると、10人以上が募集し、合計300人以上のボランティアが県内外から駆けつけました。

CtoCのボランティア募集には3つのポイントがあります。1つは生業支援ができること。お願いしたいことを自ら考えて募集できるため、生活支援にも生業支援にも対応できます。昨年の台風では、被災した農家や馬の牧場などが支援を受けられず困っていましたが、CtoCで募集を行い、多数のボランティアが支援に訪れました。2つめに様々な人が参加できること。SNSを通じて募集情報を拡散することで、今までボランティアに関心がなかった人たちも募集を目にします。馬の牧場の場合、多数の馬好きがボランティアに駆けつけました。趣味趣向でつながるSNSだからこそその広がりです。3つめは深く持続的な繋がりになること。CtoCの場合、事前に直接連絡を取り合い、当日現場で会い、さらに後日 SNS でつながることもできます。深く持続的な繋がりになることが多く、様々な場所で繰り返しボランティアに行ったり、復旧後に遊びに行ったりする人がいました。この3つのポイントを踏まえ「スケット」を開発しました。

今後の課題もあります。まずは災害ボランティアセンター（VC）との連携です。「スケット」で集めた情報をVCに共有することで、地域のニーズ調査にも役立て、より多くの支援につなげていきたいです。また、ボランティア活動の保険についても、CtoCが可能にする様々な活動に対応すべく、新たな保険を開発する予定です。少しでも多くの支援につなげるために、「スケット」の普及を目指していきたいと思います。



スケット
<https://fukko-skett.jp/>



「ぼうさい探検隊」の新たな取組み

～タブレットを活用したぼうさい探検隊・事前学習ツールの活用を開始～



日本損害保険協会

1

第17回(令和2年度)ぼうさい探検隊への応募について

一般社団法人日本損害保険協会(会長:金杉恭三)は、令和2年度(2020年度)もぼうさい探検隊マップコンクールを実施いたします。

「ぼうさい探検隊」とは、一般社団法人日本損害保険協会が主催している実践的安全教育プログラムで、子どもたちが楽しみながら、まちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、マップにまとめて発表するものです。

第17回からは、タブレットを活用したぼうさい探検隊、事前学習型の取組みを新たにスタートします。初めて取り組む方にとっても、短時間で、効率的な学習効果が期待できますので、是非応募をご検討ください。

(1) タブレットの活用について

事前学習、フィールドワーク、マップづくり、発表というぼうさい探検隊の一連の流れがタブレットのみで対応できます。また、タブレットを活用することで、これまでの紙によるマップ作成よりも、短時間で取り組むこと

ができ、指導者にとっては事前準備の時間も削減できます。さらに、情報活用能力の育成となるICT教育も同時に行えるため、教育手法の一つとして活用いただくことで、幅広い学習効果が期待できます。

第16回の試行実施に参加した73チームの指導者55人、児童448人にタブレットによるまち歩きについてアンケートを実施しました。その結果、多くの指導者が、活動内容の面白さ、興味深さに注目していることに加え、タブレットを利用することで、時間短縮や準備の軽減に繋がったという回答が多数あり、十分な効果を確認することができました。

また、アプリが分かりやすい、楽しかったと9割以上の児童が回答し、アプリの操作に対して抵抗なく取り組んでいたことがわかりました。児童の興味・関心を集めることで、教育効果が高まることが予想されます。

(2) 事前学習ツールの作成について

全国各地で大きな被害をもたらす台風・地震などの自然災害や、子どもが犯罪・交通事故に巻き込まれる事件や事故が増加しています。こうした地域の安全や安心が脅かされる社会情勢の変化に対応するには、これまで以上に、子どもたち自身で危険



※画面仕様は、試行実施時のものであり、最新のものと異なる場合がございます。

を予測するなど状況を的確に判断し、身の安全を守る行動を身につける安全教育が必要不可欠です。そこで、子どもたちの気づきを重視した「ぼうさい探検隊」のプログラムに加え、防災・防犯・交通安全に関する知識を事前に身につけることで、一層の教育効果を発揮できると考え、まち歩きの前学習の手引きとして、事前学習ツールを作成しました。

イラストや写真を多く用いて、子どもたちが防災・防犯・交通安全のテーマごとにイメージしやすい内容としたほか、実際のマップを掲載してマップづくりの手順やポイントについても解説するなど、指導者用手引きとしても活用いただけるように工夫していますので、是非ご活用ください。

2 第16回マップコンクールの実施報告

令和元年度（2019年度）に実施した第16回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」では、全国の小学校や子ども会・児童館・少年消防団など594団体から16,492人の児童が参加し、2,541作品が寄せられました。団体数は、前回から28団体増加し、過去最多となりました。また、市区町村など自治体に対して具体的に「提言」「改善点」などを書いた作品も多く、まち探検を通じて、子どもの視点でのまちへの提言が浸透し、より安心・安全なまちにしようという熱意が感じられました。

表彰式では、宇田川理事業務企画部長による「ぼうさい探検隊における新たな取組みについて」



第16回防災担当大臣賞 かほく市子ども会 高松支部 内高松子ども会（石川県）

の説明、「タブレットを活用したぼうさい探検隊」のビデオ上映につづき、文部科学省森本安全教育調査官から、「ぼうさい探検隊とICT教育との連携について」というテーマでご登壇いただきました。

次いで、文部科学大臣賞、防災担当大臣賞、消防庁長官賞、まちのぼうさいキッズ賞、気象庁長官賞、キッズリスクアドバイザー賞、未来へのまちづくり賞、わがまち再発見賞、ぼうさい探検隊賞に選ばれた9作品の学校・団体を表彰しました。

当日は、入賞した児童、指導者、プレゼンター、来賓等144名が参

加し、大盛況のうちに終了しました。

表彰式後の交流会では、「タブレットを活用すれば、効率よくマップを作成できそうであり、興味を持った」、「過去最多の参加団体があった中で受賞できたことは、大変光栄に感じる」、「様々な地域の受賞団体と意見交換することができ、マップの活用方法や作成の工夫などを学ぶことができた」などの声が多数寄せられました。

ぼうさい探検隊
参加申込フォーム
<https://edp-entry.jp/>



第16回表彰式での集合写真

民間企業の動き

ビッグデータを駆使した自治体向け災害対策情報提供システム



応用地質株式会社

応用地質、KDDI、トヨタ自動車は、頻発化・広域化する自然災害への対応を迫られる自治体を支援するため、IoTおよびビッグデータ分析の最新技術を活用した「自治体向け災害対策情報提供システム」を開発し、提供を開始しました。

当社が開発した防災IoTセンサによるモニタリング情報や、KDDIの人口動態データ、トヨタ自動車のコネクティッドカーから得られるプローブデータ、気象庁などが提供する気象情報などを

統合し、自治体における被害の発生状況や、避難者や道路の状況などを準リアルタイムに把握することで、タイムリーな避難判断や通行規制、救援物資の適切な配分など、自治体によるスピーディーな意思決定と高度に効率化された防災体制の構築を支援するシステムです。



自治体向け災害対策情報提供システムの管理者画面（センサ設置状況）

応用地質株式会社
計測システム事業部
つくば市御幸が丘 43
TEL: 029-851-5078
prosight@oyonet.oyo.co.jp



https://www.oyo.co.jp/business_field/disaster-countermeasure-information-provision-system/

地域の防災力を創る

トーハツ株式会社は大正11年（1922年）にエンジンメーカーとして設立し、令和4年（2022年）には創業100周年を迎えます。現在は可搬消防ポンプ、船外機の製造、販売を行っており、両製品は弊社が日本で初めて世に送り出しました。

可搬消防ポンプは地域防災力の中核となる全国の消防団及び自主防災組織で使用されており、「小型・軽量・コンパクト」という特徴を生かして迅速な消火活動を可能とします。可搬消防ポンプを車輻に積載することで消防車としても使用出来ます。

また、近年頻発している水害対応のため、数年掛けて水陸両用車の紹介を行って参りました。令和元年10月25日の大雨で千葉県山武市の一部道路が冠水した際に弊社の水陸両用車が出動し、園児含む64人を救出しました。今後新たに宮城県、愛知県、熊本県に導入予定です。



トーハツ株式会社

火災・災害から人々の生命と財産を守るため、今後も地域防災力向上に貢献していく所存です。



(上) コンパクトで高性能な消防ポンプ
(左) 冠水地域の救助活動を支援

トーハツ株式会社
防災営業部
東京都板橋区小豆沢3-5-4
TEL: 03-3966-3115
<https://www.tohatsu.com/ffdp/jp/contact/>



<https://www.tohatsu.com>

「インプラント工法[®]」による国土強靱化の推進

技研製作所は、無振動、無騒音の杭圧入引抜機「サイレントパイラー[®]」と、自然災害に強い「インプラント工法[®]」を用いた防災インフラを提案しています。

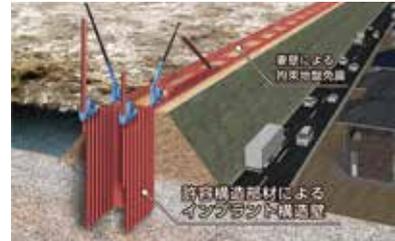
インプラント工法は、高剛性の鋼矢板や鋼管杭を地中深く圧入し、地震による地盤沈下や津波などの外力に耐える構造物（防潮堤や護岸、擁壁など）を造る工法です。東日本大震災の被災地では、多くの堤防が地震、津波で破壊された中、同様の構造を持つ鋼矢板の壁体は無傷で残

りました。同工法は震災後に注目され、近年の震災、豪雨被災地の復旧や南海トラフ巨大地震、首都直下地震に備える地震津波対策に採用されております。

豪雨による破堤被害が相次ぐ近年は、同工法を用いた壊れない堤防「インプラントロック堤防」の提案に注力しております。堤防内に鋼矢板の壁体を築く工法で、盛土が崩れても壁体が越水や浸食、浸透による破堤を防ぎます。人命、財産を災害から守る「責任構造物」の整備を訴え、



株式会社技研製作所



「インプラントロック堤防」の施工イメージ図

国内外で開発、提案活動を推進してまいります。

株式会社技研製作所 東京本社
東京都江東区有明 3-7-18
有明セントラルタワー16階
TEL: 03-5328-1633
project@giken.com
<https://www.giken.com/ja/>



エクアドル、コロンビア両国で、官民防災セミナーを開催



内閣府（防災担当）普及啓発・連携担当

内閣府では、令和2年1月にエクアドル・コロンビア両国を訪問し、官民防災セミナーを開催しました。本セミナーは、我が国の防災政策や防災技術を一体的に紹介するとともに、官民ネットワークを構築し、防災協力関係を強化することを目的として実施しました。

両国は、地震、津波、火山、水害、土砂災害といった日本と同様の災害に悩まされており、

日本の技術やノウハウに対する期待が大きく、会場は熱気に包まれました。セミナーでは、内閣府より日本の防災政策、JIPAD* 会員より気象・津波予測システムや地盤対策、警報システム、消防機器、防災に資する建設重機等といった技術を紹介しました。セミナー後に実施された政府高官との会談では、参加した企業とともに具体的で充実した議論がなされました。本セミナーを

きっかけとして、両国の防災分野における協力関係がさらに深化することが期待されます。

内閣府では、令和2年度以降も、仙台防災枠組や持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向け、官民一体となって活動をすすめてまいります。

「防災技術の海外展開に向けた官民連絡会」（通称 JIPAD*）

会員数：188企業・団体（令和2年2月現在）

(*Japan International Public-Private Association for Disaster Risk Reduction)



日・エクアドル官民防災セミナーの様子



コロンビア危機管理庁のゴンザレス長官との会談

入会希望の方はコチラ



<http://www.bousai.go.jp/kokusai/pdf/chirashi.pdf>



防災リーダーと地域の輪

第42回

高校生が作る避難所運営ゲーム

高知県黒潮町の高知県立大方高等学校は、地域の実情に即した避難所運営ゲーム「HUG」を作成・実践し、地域の防災力の向上に貢献しています。

高知県立大方高等学校



内閣府（防災担当）普及啓発・連携担当

高知県西部にある黒潮町（人口約11,000人）は、南海トラフ地震が発生した場合、最大34メートルの津波に襲われると予測されています。同町では、「犠牲者ゼロ」を目指して、津波避難タワーの建設や地区防災計画の策定など、ハード・ソフトの両面から様々な対策を行なっています。

同町唯一の高校で、平成28年11月に「世界津波の日」高校生サミットの議長校を務めた高知県立大方高等学校（生徒数84名）も、防災教育に力を入れています。その中心となっている活動が、避難所運営ゲーム「HUG」の作成・実践です。

HUGは、平成19年に静岡県が開発した、避難所の運営を疑似体験するカードゲームで、進行役1名とプレイヤー数名が、避難所となる体育館や教室に見立てた平面図を囲んで行います。進行役は、年齢や性別などが書かれた「避難者カード」と、受付や仮設トイレの設置、物資の搬入など避難所で発生する様々な事柄が書かれた「イベントカード」を読み

上げ、プレイヤーに配布します。プレイヤーは、イベントカードの出来事に対応しながら、平面図の上に避難者カードを配置していきます。個々の事情に応じて避難者をいかに最適な場所に配置するか、避難者からの要望や行政からの指示などにどのように対処するかを学ぶことができます。

同校教諭の近森美保さんは、HUGに取り組んだ背景を次のように説明します。

「私たちの生徒の約7割は、電車や自転車を使った遠距離通学なので、平日の日中に大きな災害が発生すれば、生徒の多くは帰宅できません。その場合、生徒は校舎に開設した避難所で住民と過ごすことになります。そうした状況に備え、避難所生活の訓練が必要と考えました。」

HUGの取組みは、平成30年に防災教育チャレンジプランとして採択後、本格的にスタートしました。同校で「地域学」の科目を選択している2年生の10名がHUGの作成・実践の中心となりました。生徒は、住民からの聞

き取り、避難路や避難タワーの調査などで地域の情報を集め、東日本大震災を経験した宮城県多賀城高等学校との交流を通じて、実際の避難所で発生する事柄や災害への心構えを学びました。こうした活動を踏まえ、生徒は地域の実情に合ったオリジナルのHUGを作成しました。

平成30年夏に完成したHUGでは、避難者カードは実際の住民の情報をもとに約100名分を作成、一方、イベントカードは、例えば、『扇風機が届く。どのように配布すべきでしょうか。』、『寒さで眠れなくなる人がいる。どのような対策をするべきでしょうか。』など、夏と冬それぞれで発生した場合を想定したものを作成しました。

完成後、数回にわたってHUGが実践され、同校の生徒のみならず、中学生、住民、役場の職員、防災関係者など様々な人が参加しました。生徒は実践を重ねるごとに、改良を加えていきました。同校の全生徒が参加した実践では、仮設トイレの設置、車椅子の用意、





大方高校の体育館で HUG を実践する生徒



大方高校と、近隣の保育所、小学校、中学校との共同避難訓練



防災カルタを使った小学校での出前授業



炊き出しの訓練

防寒シートの用意などの指示が書かれた「実行イベントカード」を加え、その指示を生徒が実際に行うという工夫をしました。

この他にも、近隣の保育所、小学校、中学校との共同避難訓練、炊き出しや備蓄品の持ち出し訓練、非常食となる山野草「防災植物」の調理などの様々な防災活動を行ないました。

こうした活動が評価され、大方

高校は平成 31 年 2 月、防災教育チャレンジプランの「防災教育優秀賞」を受賞しました。

同校教諭の浦田友香さんは、チャレンジプランの活動を通じて、生徒の意識や行動に変化が現れたと話します。

「様々な人との交流で、コミュニケーション能力が高まりました。また、多くの人に感謝されることで自信が付き、自分は社会のため

に何ができるのかを考えるようになりました。」

同校は平成 31 年に再びチャレンジプランに採択され、高齢者や障害者などの要配慮者を受け入れる福祉避難所を想定した HUG の作成、視覚・聴覚障害者が参加した防災訓練、同校オリジナルの「防災カルタ」を使った小学校での出前授業など、さらに活動の幅を広げました。その結果、令和 2 年 2 月に「防災教育特別賞」を受賞しました。

「地域の高齢者からは、『若い人がこんなに住民のことを考えてくれているのなら、自分たちも頑張らなければ』といった声も上がっています。若者の地域への影響力は非常に大きいです。これからも、地域の人たちに信頼される生徒を育てていきたいです」と浦田さんは話します。

(画像提供:すべて 大方高等学校)

ぼうさい 春号 [No. 98]

令和 2 年 3 月 31 日発行 [季刊]
<http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/r01.html>



● 編集・発行

内閣府(防災担当)普及啓発・連携参事官室
〒100-8914
東京都千代田区永田町 1-6-1
中央合同庁舎第 8 号館
TEL:03-5253-2111 (大代表)
FAX:03-3581-7510
URL: <http://www.bousai.go.jp>



● 編集協力・デザイン

株式会社ジャパンジャーナル
〒101-0063
東京都千代田区神田淡路町 2-4-6-7F
TEL: 03-5298-2111 (代表)
URL: <http://www.japanjournal.jp>

● 印刷・製本

敷島印刷株式会社
printed in Japan

● 編集後記

今号の特集は、阪神・淡路大震災から 25 年が経過した兵庫県の現在の取組みを取り上げました。災害が激化するなか、私たち一人ひとりが災害の状況やリスクを把握し、適切な避難行動ができるようにすることが求められています。また、高齢者や障害者といった、自力では避難が難しい人をどう支えるかも大きな課題です。防災は、行政だけではなく地域のさまざまな人が協力し合い、地域全体で取り組むことが重要です。皆さんも、この機会に、身近な防災の行事に参加するなど、家庭内・地域の防災について、考えてみませんか。

ご意見・ご感想を、内閣府(防災担当)広報誌「ぼうさい」担当宛で、はがき、FAX にてお寄せください。

第35回

防災ポスター コンクール 入賞作品

防災担当大臣賞 (5作品)



幼児・小学1・2年生の部
中西 彩良 さん
(愛知県 / だれでもアーティストクラブ)



小学3～5年生の部
荒川 幸飛 さん
(埼玉県 / 川越市立霞ヶ関西小学校)



小学6年生・中学1年生の部
笠岡 大志 さん
(徳島県 / アトリエ遠渡(高木教室))



中学2・3年生の部
増井 伶美 さん
(京都府 / 洛南高等学校附属中学校)



高校生・一般の部
寺谷 実花 さん
(大阪府 / 池田市)

防災推進協議会会長賞 (5作品)



幼児・小学1・2年生の部
前田 俊 さん
(東京都 / 品川区)



小学3～5年生の部
藤島 妃花 さん
(徳島県 / アトリエ遠渡(高木教室))



小学6年生・中学1年生の部
長谷川 輝 さん
(千葉県 / 成田市立吾妻中学校)



中学2・3年生の部
寺田 あかりさん
(茨城県 / 常総市立水海道中学校)



高校生・一般の部
大南 怜奈 さん
(青森県 / 八戸工業大学第二高等学校)

審査員特別賞 (1作品)



有川 弥子 さん
(福岡県 / 福岡市立原北中学校)



受賞作品は http://www.bousai.go.jp/kyoiku/poster/35prize/35_1.html からご覧になれます。

